

おさんぽふいーるどわーく

増田編

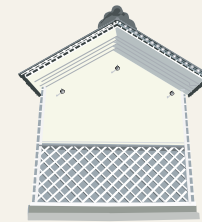


- 1 増田神社・衣笠の松
- 2 荘司邸の土蔵造り邸宅
- 3 鶴見屋の二階建土蔵造倉庫
- 4 第六天神社・第七天神(お堂)
- 5 奥州三十三観音第五番札所
- 6 耕龍寺 山門

✦ 道路沿いに蔵の見えるところ



板倉(いたぐら)



土蔵(どぞう)

■ 道路沿いに石碑のあるところ



5の奥州三十三観音が元々あった所の近所に、江戸時代につくられた石碑があります。馬頭観音(使役していた馬の供養のためのもの)があることで、昔から人の行き来が盛んだったことがわかります。

1 増田神社・衣笠の松（市指定天然記念物）

増田神社は室町時代の文安年間（1444～1448）に、この地に来た菊地氏が大和国の社から分霊してお祀りしたのが始まりと伝わっています。のち、明治41年（1908）に増田神社と改称し、周辺の村の神社を合祀しました。

衣笠の松は江戸末～明治に増田北町検断をつとめた菊地氏の庭にあったもので、明治天皇の東北巡幸時、随行の木戸孝允が詠んだ和歌がきっかけで命名されました。昭和41年には市の天然記念物に指定されています。



2 荘司邸の土蔵造り邸宅

名取市の第3～6代市長をつとめた故荘司庄九郎氏の屋敷です。なまこ壁（※）の美しい模様が奥州街道から見られます。

（個人地のため、敷地内への立ち入りは許可を得てください）

（※）土蔵の壁の塗り方の一種。防火、防水などの目的もある。



3 鶴見屋の二階建土蔵造倉庫（市登録文化財）

江戸時代中期に創業された鶴見屋商店の土蔵です。明治10年（1877）頃に建築されたと伝わり、平成8年にはひきや曳家と改修工事が行われました。

白塗りとなまこ壁のコントラストが往時の奥州街道の風情をしのばせてくれます。

（個人地のため、敷地内への立ち入りは許可を得てください）



4 第六天神社・第七天神（お堂）

第六天神社は永正元年（1506）に創始の神社と伝わっています。社号の由来は増田に神代七代の神々を祀った際、第六天神（※）をおまつりしたことからと言われています。明治41年

（1908）には村区にあった大宮神社を合祀しました。また、増田七天神のうちの第七天神（守塚明神）も平成24年に境内に移築されています。

ほかに境内には庚申碑や山神碑など、地域の人々の昔ながらの信仰の記録である石造物も残されています。

（※）馬塚明神。本尊は阿弥陀如来種子の板碑



5 奥州三十三観音第五番札所

名取熊野三社を勧請したと伝わる名取老女が定めたとされる「奥州三十三観音」の第五番札所です。本尊は千手観音です。元は増田二丁目にありましたが、所有者の移転により現在地に移りました。

（個人地のため、敷地内への立ち入りは許可を得てください）



6 耕龍寺 山門（市指定文化財）

耕龍寺は応仁元年（1467）に蕊源和尚が開山したと伝えられる曹洞宗の寺院です。蕊源和尚は伊達家11世持宗公の五男であり、持宗公夫妻のお墓（※）と伝わる五輪塔も境内にあります。山門は伊達藩の家老、片倉家の居城だった白石城の門の一つを明治初期に移築したもので、東日本大震災で被害を受けましたが修復され、現在では堂々とした姿が見られます。

（※）伊達持宗夫妻供養五輪塔。市登録文化財

